令和４年度第１回川崎市地方卸売市場南部市場運営審議会　議事録

１　開催日時　令和５年２月１４日（火）午前１０時００分から午前１１時３０分まで

２　開催場所　南部市場管理事務所棟３階　第１会議室

３　出席者

（委員）

渡辺　達朗（専修大学商学部教授）

池田　真志（拓殖大学商学部教授）

松尾　昌彦（川崎丸魚株式会社代表取締役社長）

髙橋　恵（川崎花卉園芸株式会社課長）

長峯　浩二（川崎青果仲卸組合組合長）

大平　憲太郎（川崎花卉園芸睦会）途中参加

田口　澄也（セレサ川崎農業協同組合代表理事副組合長）欠席

石川　美由紀（川崎市地域女性連絡協議会幸地区長・環境消費部長）

（市職員）

鈴木　雄二（経済労働局中央卸売市場北部市場長）

細井　多（経済労働局中央卸売市場北部市場担当課長〔市場経営企画〕）

佐藤　忠光（経済労働局中央卸売市場北部市場管理課長）

齊藤　憲悟（経済労働局中央卸売市場北部市場業務課長）

４　議事

（１）　令和２・３年南部市場各部門取扱の概要について　資料１

（２）　川崎市卸売市場経営プランの進捗状況について　資料２

（３）　地方卸売市場南部市場の今後の運営方針に係る検討について　資料３

５　その他

傍聴人　６名

公開有無　有

６　審議結果（要約）

司会：経済労働局中央卸売市場北部市場管理課長　　佐藤　忠光

【開会】

佐藤課長から各委員及び市職員の紹介。

会議成立（委員８名中７名出席うち途中参加１名）、会議公開（傍聴及び議事録による）、議事録作成方式（要約方式による）を確認。

【会長・副会長の選出】
委員互選により、池田委員が会長、渡辺委員が副会長に就任。
会長、副会長から就任にあたっての挨拶。

【議事】
池田会長　「令和２・３年南部市場各部門取扱の概要について」を、事務局から説明を。

齋藤課長　（資料１を説明）

池田会長　説明に対して、御意見、御質問はあるか。

松尾委員　占有率・取扱数量というところの店舗集計でも卸売経由率で今いろいろと問題になっているが、５０％を切るという数字が高いのか少ないのかという議論になると、決して業界では少ないとみていない。なぜなら数字の裏付けの部類が全然ない。水産でいえば、鮮魚が何パーセントや加工品が何パーセント、冷凍が何パーセントとかそれがない。鮮魚についてはそんなに落ちているわけではではない。大きく落ちたと業界でわかっているのは、冷凍品関係と原材料関係で市場経由率が下がってきてしまっている。だから全部を全部一概に測るものでもない。そういうものは市場の中でどこに売られているのかとういうのは全然違う部類の販売になっている。
だから、もう少し市場経由率の数字的な中身のところはこれから検証して、しっかりと答えていけない。

池田会長　鮮魚の方ではあまり落ちていなくて、冷凍の方で落ちている。細かく部門ごとに見ていく必要があるということか。

渡辺副会長　花卉のところで、新たな販路でアパレルや外資系という話があったが、具体的にどういうところなのか。

髙橋委員　今までは、お花に関するスーパーだとかに卸していたのを、大手アパレルや量販店とやり始めて、そちらが伸びている。

渡辺副会長　店舗単位の取引なのか。

髙橋委員　　店舗にも卸しているし、あとは自宅に直接お送りする、そちらが伸びている。インターネットで注文をいただいて、販売をしていくというのが伸びている。

池田会長　　それでは、議事の２「川崎市卸売市場経営プランの進捗状況について」市から説明をお願いしたい。

佐藤課長　　（資料２を説明）

池田会長　　何か意見、質問はあるか。

池田会長　　進捗状況について、２／２ページ目の南部市場の重点施策と書いてあるところがひとつ、産地情報の提供やリテールサポートの推進というのが書いてあるが、これに関しては何かすでに動いているのか。それともこれからなのか。

齋藤課長　　聞いている話では、花卉園芸さんが、大手アパレルや量販店に対して、産地や商品の特徴を情報発信やＰＲをしているということで、営業の拡大を図っているという話を伺っている。

池田会長　　花卉さんのところでやられていると、これは水産や青果の方ではどうか。

長峯委員　　まだやっていない。

池田会長　　水産の方では何かやっているのか。

松尾委員　　水産の方では、ここに書かれているイベント実施の中で、お客さんと一般の方々も呼び込んでやっている。ここはお客さんと接する時間が長く、お店をやっている。細かくその辺の要望には対応しているように私は感じている。

池田会長　　それでは、議事の３「地方卸売市場南部市場の今後の運営方針に係る検討について」市から説明をお願いしたい。

細井課長　　（資料３を説明）

池田会長　　意見・質問があるか。

石川委員　　施設の老朽化が一番気になるのだが、寄附を貰って建てていくとか、そういう方針はできないのか。例えばふるさと納税にあるように、税金を納めるというわけではないのだが、寄付金を貰ったら市場の中から何か返礼品を送るとすると結構集まるのではないか。まずこの建物を見た段階で、老朽化が進んでここに来ようかという気持ちにもならないような気がする。こういう風な取組か何かを企画したらいいのではないかと思う。そうすればみんな集まる。ここの場所は区役所も近いし、駅も三つあるので、川崎や矢向、尻手あたりから来るのではないと思うが、いかがか。そういうことを検討してもいいと思う。

細井課長　　市場の今後の運営方針について検討し、再整備をするという結論が出た場合、やはりお金をどう工面していくかということは非常に大きな問題なので、いろいろ知恵を使いながら方法を探っていくということは必要なことだと思っている。ふるさと納税は特産のものを差し上げますというのが一般的なので、川崎市で作られているものは物量が少なく、一工夫考えないといけない。いずれにせよ、お金の調達について考えていくというのは一考だと思う。

石川委員　　市場で扱っているものを返礼するというのも一つの手ではないか。地産地消でもいいが、ここで扱っているというものですよというのも一つのアピールになるのではないか。生花にしろ鉢植えにしろ。切り花は日持ちがしないが、今は色々な工夫で切り花も早く届くようになっている。市場の独自性のあるものを使ったら、より相乗的に効果があるように思う。

細井課長　　そういったアイディアは今後の検討の中で、皆さんと相談しながら考えていけたらと思う。確かに老朽化してしまっているがゆえに、買い手の方々を引き付けづらいという話は場内事業者の方からもいただいていて、そこら辺は大きな課題の一つとして掲げている。

今回は、南部市場の今後の運営方針について検討を始めますという宣言の場なので、次年度以降の検討に生かしていきたいと思っている。

松尾委員　　令和元年第２回の審議会の議事録を見ると、「南部市場の施設整備について今後スクラップ・アンド・ビルドで取組みを進めていく。すでに市場施設の再整備を実施しており、当面は老朽化対策等の必要な施策を講じていくものと考えている。機能強化・機能更新等の必要な整備を検討していく。」とあるが、基本的に再整備を実施しているという、再整備の内容とは何か。

細井課長　　おそらく平成２０年前後のことかと思うが、当時の記録からすると市場施

設については集約しようという議論になり、北側にあった花きの卸とか関連施設を南側の敷地に移転し、併せて水産の仲卸棟について低温化対応を図るという工事があり、再整備というのはその時の工事のことと考えている。

鈴木場長　補足をすると、元々ここは中央卸売市場本場として開場したものが、取扱量の減少に伴い、国がこの取扱量より上であれば中央卸売市場として認めるという各自治体に通達した再編基準より下がってしまい、他の市場と統合するとか、他の広域の市場と合併するとかの選択肢がある中で、川崎市としては地方卸売市場化して南部市場は残そうという選択をした。ただし、取扱量が減少し続けていて、そのままでは経営状況が悪くなるままだったので、過度と思われる施設については集約化して、少しコンパクトにして身の丈に合った市場ということにした。その結果、北側用地と呼んでいた、現在は特別養護老人ホームや中学校給食センターが建っている場所、あそこは元々市場の土地だったものが、市場とは切り離し、そこにあった施設をこちら側に持ってきて、コンパクト化・集約化をして身の丈に合った市場として運営するといった整備をした。それを当時は再整備ということとしてやっていたということ。

池田会長　当時の再整備とは、これからの再整備と別のものということか。

鈴木場長　そのとおり。

松尾委員　これからどうするのかという議論をここから始めていくものと思うが、今の流通全体を頭に入れながらどう変化していくかという資料を見ておかないと、この先の絵は描けない。今どういうことが起こっているかと言うと、このウクライナ戦争によって価格が高騰しており、日本になかなか物が入らなくなってきている。そういう、今まで我々が自由に調達してきたものができなくなっているという実態が現状としてある。獲れるときはわっと獲れるが獲れないときは全く獲れない、というのが魚の中でも起こっている。そうすると、旧態依然の市場の緩和とは別に、どういうことがおこるかと言うと、ストックポジションを取らないといけない、どこかがストックをしないといけない。それを市民に安定的に供給する機能を持たないといけない、それが問われているところ。では今どういうことが起こっているかというと、大田市場も荷物はいっぱいでもう入りません、豊洲市場ももう荷物はいっぱいです、どこも受けてくれない、荷物を細分化できない。場所が非常に少ない。地域密着型もいろいろあるが、これからの市場を考えていくと、ストックを持って安定供給する場所というのが、それは必ずどこかに必要になってくることは間違いない。そ

れを誰が担うのか、川崎市民の食の安定供給は誰が担うのかというところが問題になってくる。これから２０２４年物量問題もあって、トラックも今までの量は運べなくなってくる。そうなってきたときに、どこが荷物を全部供給していくのか、という問題を総合的に考えたうえでの今後の機能というものを、過去の延長線ではなく、新しい視点で考えていかなければならないのかと思う。その責務は誰が負うのか、というところだと思う。

池田会長　今の点は非常に重要で、今後の検討の中で検討されていく意見かと思うが、川崎市から今の意見に対して何かあるか。

細井課長　自分たちは役所の中でも市場の所管なので、市場の必要性だとか果たしている機能だとかというのを明確に、声高に伝えていくべき立場だと認識している。役所の中であったり市議会であったりでというと、お金を色々補填しているのだろうとかというそちらの観点でばかりでものを見られがちなので、自分たちのような立場の人間が、食の安定供給というところでの必要性であるとか、そういったところをきちんと伝えていって、川崎市にとってより良い今後の運営の方針というのを決められるようにしていきたいと思う。実際、本格稼働は来年度からとなるが、皆さん方と意見を交換しながら、その辺は正しく伝えていきたいと思う。

石川委員　今伺って、ストックしておくということも本当に大切なのだということがよく分かった。それと、鮮魚というのは鮮度が一番大切だし、この中でコールドチェーンというものが出てきたが、要するに冷凍だが、そういうものも含めてどこがストックするのかという、そういう問題も考えながらやっていかなければいけないのではないかと思う。今後、輸入とかそういうものの制限とか、獲れる獲れないという話が出てきたら、冷凍とかコールドチェーンに頼らざるを得ないのではないかとも思う。それと、築地とかそういうとかに寄ると、何とかツアーとか、外国人とかが色々来ているが、ここら辺はまだそういうツアーとかがないので、市と共同とか色々やって、南部市場何とか見学とかいう感じでやれたら地元に来やすいのではないかと考えるので、そういうところも検討の中に入れてもらえればと思う。

細井課長　先ほどの低温対応については、市場として川崎市民に食を安定供給するという本当の根っことところにかかる部分だと思っていて、きちっと取り組んでいきたいと思う。

また、市場見学ツアーについては、指定管理者が入って色々運営してくれて

いて、今はコロナの関係で少し控えているが、取り組み自体はもうやっている。特にここは地域密着型の食品流通の拠点として、地域の皆さんにも立ち寄ってもらえる市場を志向しており、食鮮祭りだとかそういったイベントも交えつつ、取り組みを進めているところなので、こちらもきめ細やかにやっていきたい。

石川委員　一つ提案だが、放送局やメディアを巻き込んでもいいかと思う。どこかの放送局に、こういうのがあるという企画を持ち込んで、それで南部市場を取り上げましょうというのも一つの手だと思うので、そこは計画に中に入れておいてもいいかと思う。

細井課長　指定管理者の方でＳＮＳを通じた情報発信は注力してくれているので、プラスアルファでメディアの活用みたいなものも視野に入れていこうかと思う。

渡辺副会長　これからするということなので、中に入っている事業者さん、仲卸だとか買参の方との議論はそんなに始まっていない、今日がスタートラインということになるか。

細井課長　オフィシャルに検討を開始しますというのが２月９日の議会報告だったり今日だったりするが、資料３の４ページ目にあるように、これまでも事前に卸の役員の方、あるいは各部門や団体の代表にあたるような方とは市の方で課題認識していることなどについて意見交換をしてきていて、一定の課題認識のすり合わせはしている。その方々を筆頭に場内事業者を束ねた団体を作ってもらっていて、情報共有もしてはいるが、役所として公式に検討を始めますというのは今回が初めてとなる。今後、意見交換を本格化したいと思う。

渡辺副会長　ぜひ現場の方々と密接に意見交換してもらえればと思う。

松尾委員　少し補足をすると、去年６月に場内事業者で構成する協議体を立ち上げて、ここで一番大事なのは合意形成をどうつくっていくかということで、合意形成を事業者さんと組織化して、そこで色々議論を重ねていて、もう８回くらい議論をしてきている。そういう部分でこの先どうしようという意見や情報を共有して、意見を言う窓口を作って、今話しているというのが現状。そういう中では何も議論をしていないわけではなく、我々としても危機感を共有して、共にこの先をどうするかというところではみんな同じ目線でというところでやっている。

渡辺副会長　　話が具体化していけばいくほど、考えが分かれていくと思うので、ぜひその辺の調整・合意形成をしてもらいたい。

松尾委員　　もう一点考えておいてほしい点は、川崎の場合は市場が二つあり、この辺りの地域から尻手黒川線で北部市場に行くのに車で１時間以上かかる。川崎の地理上の特性としては南北に細長く、南部も人口が今増えていて、１５０万人以上に人口が増えている。これから起こりうることは、天災・災害で、それを受けたときに避難できるところがどこにあるのか。北部市場には作ります、南部市場にはありませんでは、南部の人は北部には逃げられないという中では、やはりこういう公共性のあるところが、天災・災害においては拠点になっていかないといけない。そういう機能を持たせないと、逃げてきても飛び込めない、受け入れない状態になってしまう。その辺も考えていかなければならない機能の一つではないかと思う。

細井課長　　資料３の１ページ目になるが、災害対応の拠点機能が必要だというのは我々も同じ認識である。川崎市の地域防災計画で、物資の集積拠点ということでここは指定されている。今もうすでに、災害対応の拠点として大切な場所だという位置づけはされているが、ここに人が避難してくるというよりは、救援物資がどっと来てそれを出す場という意味で重要な役割という、そういった位置づけになっている。災害の救援物資を流すという以外にも、食品の流通を早く復旧しなければならないという本来的な使命もあるので、今現在の川崎市側の認識としては人が集まる場所というよりは必要な物をさばく場所といったことでここを災害時の拠点として使っていきたいと思っている。いずれにしても大切だということだ。

池田会長　　最後に全体を通して何かご意見、御質問はあるか。

⇒意見なし。

池田会長　　なければこれで本日の議事を終了する。

佐藤課長　　池田会長ありがとうございました。

本日は皆様、本当に貴重な御意見、広範囲にわたる今後の南部市場の運営方針に係る検討に資するような御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。皆様の任期はこの３月３１日で終わり、来年度は新しいメンバーになることとなりますが、引き続き、南部市場の今後ということでは御協力の

方も併せてお願いしたいと存じます。

以上を持ちまして「令和４年度第１回川崎市地方卸売市場南部市場運営審議会」を閉会いたします。

以上